

公告 昭 35.7.26 出願 昭 33.2.12 実願 昭 33-6626

出願人 考案者 保 田 隆 津山市押入96
(出願人において、権利譲渡または実施許諾の用意がある)

(全2頁)

立 体 音 レ コ ー ド

図 面 の 略 解

第1図はレコードの音溝の構成を示す平面図、第2図はレコードの外縁部を拡大して示す平面図、第3図はレコードとビツクアップとの関係を示す平面図。

実 用 新 案 の 説 明

この実用新案は2本の並行する音溝に、一定の距離のずれをもつて同時に左右の音を録音した立体音レコードで、図中1は第一音溝で左側音を録音し、2は第二音溝で、右側音を第一音溝1の左側音より一定距離(2~3mm程度とし規格を統一する必要がある)だけ回転方向にずらして同時に録音する。第2図に示す通り、外縁の無録音部3において第一音溝1の大きな波形とし、また第一音溝1と第二音溝2の間隔は2mm程度として、両者を肉眼で容易に区別出来るようにする。

録音部4においては、二つの音溝1,2の間隔は普通レコードと同じ(LPで0.1mm程度)とする。

再生には第3図に示す通り、アーム8により図

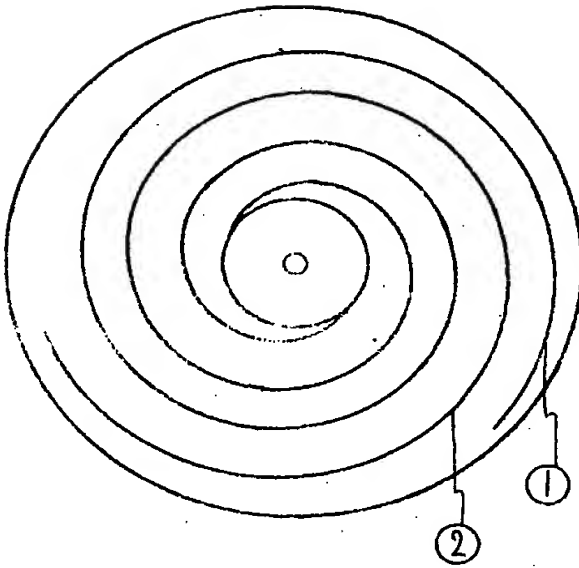
節9を経て支えられた双頭ビツクアップ(二つのビツクアップの組合せ)5を用いる。6,7はそれぞれ第一及び第二ビツクアップの針の位置を示し、6,7間の距離は一定(録音の際の左右音のずれの距離に等しい)とする。

この立体音レコードの演奏は次のようにする。即ち、第一及び第二ビツクアップをそれぞれ別の増幅器を通して左右のスピーカーに接続し、レコード10の無録音部3の波形の第一音溝1に第1ビツクアップの針を、またその内隣の第二音溝2に第二ビツクアップの針をのせ、次いでレコード10に回転を与えることによって立体音として再生する。

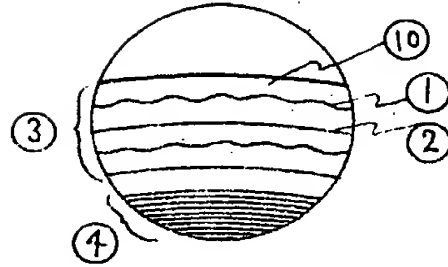
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示す通り、並行する2本の音溝1,2に、一定の距離のずれをもつて左右の音を同時に録音し、外縁の無録音部3において第一音溝1を波形として第二音溝2と区別した立体音レコードの構造。

第1図



第2図



第3図

